

タヌキは北軽井沢（浅間高原）でも、キツネに次いでよく見かける動物です。キツネに比べて行動が鈍く、走っている姿はあまり見かけません。ただ、夫婦仲が良いので、繁殖期（冬）にはペアで行動する姿をよく目にします。残念ながら、キツネやリスのように道路を素早く渡れないので、車にひかれる動物の第1位です。それも、夫婦そろって道に横たわっている姿は、何とも可哀そうです。

そんなこともあり、私は高原を運転する時は特にタヌキに気を付けています。タヌキのよく出現する場所はおよそ知っているのので、徐行運転をしています。先日も山荘のすぐそばの町道で、タヌキに出会いました。道端の草地に1匹だけで現れて、そのまま巣穴にもぐっていきました。穴にもぐったので、最初は「アナグマ」とも思いましたが、大きさと顔の特徴からタヌキとわかりました。

タヌキも地中の穴を好んで営巣しますが、実は自分で穴を掘るのは苦手です。そこで、キツネやアナグマの掘った巣穴を、自分流に少し「リフォーム」して利用しているのです。この時もぐっていった穴も、別の時期にキツネの親子が利用していたものでした。都会地などで営巣に適した穴が見つからない場合は、道端の側溝や人家に営巣する時もあるそうです。

かつてタヌキは、極東にのみ生息する珍しい動物でした。しかし20世紀の初めに、毛皮を目的に旧ソビエト西部に移入され、野生化したものがゆっくりと生息地域を広げました。今では、北欧のスウェーデンやフィンランドでも目撃例があるそうです。

(2024年11月中旬／北軽井沢／ドライブレコーダー映像)

